

那珂川だより

那珂川緊急治水対策プロジェクトに盛り込まれた河川対策の進捗やソフト対策の検討状況をお知らせします

令和3年9月
第15号

とも築こうまち・みらい
編集・発行
国土交通省 常陸河川国道事務所

工事の進捗状況 ～中大野排水樋管 樋管新設工事～



令和2年6月撮影

①着手前：新設なので、まだ何もありません。



令和2年10月撮影

②地盤改良：樋管の下の地盤を堅固にしています。



令和3年8月撮影

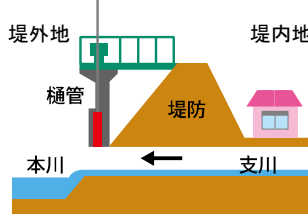
④樋管完成：樋管が完成し、これから樋管の後ろに堤防を築堤します。



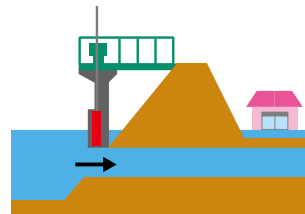
令和3年3月撮影

③函体打設：コンクリートの打設をしています。

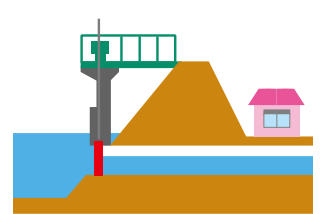
樋管とは：堤防の中に水路を通し、そこにゲートを設置した施設です。堤内地の雨水や水田の水などが川や水路を流れ、より大きな川に合流する場合、合流する川の水位が洪水などで高くなった時に、その水が堤内地側に逆流するのを防ぎます。



①平常時には樋管は開いていて、支川の水は本川へ流れます



②洪水時に本川の水位が上がると、本川から支川に逆流してしまいます



③本川からの逆流を防ぐために、樋管を閉じて、堤内地を守ります

境界立会を行いました

○令和3年8月10～12日に水戸市吉沼地区で、堤防整備を行う上で必要となる、用地境界の立会を行い、71名の地権者などの方にご参加・ご協力いただきました。

今後、詳細な用地及び物件調査を進めて参りますので、ご協力をお願いいたします。



立会状況



【番外編】海門橋の歴史を調べてみました！（第1回）



○皆さんは那珂川河口にある海門橋をご存知でしょうか。

海門橋は、今からおよそ126年前、木橋から鉄筋コンクリート造アーチ橋へ、そして5代目となる現在の鋼製ランガー橋に架け替えられてきました。

そこで、海門橋の歴史をこれから4回に分けて紹介します。

○海門橋が建設される前は、湊町と磯浜町（現在のひたちなか市海門町～大洗町磯浜町）間を渡し船で運航していましたが、天候等により運航が不安定であったため、明治27年に建設に着手し、明治28年11月に初代海門橋が開通しました。

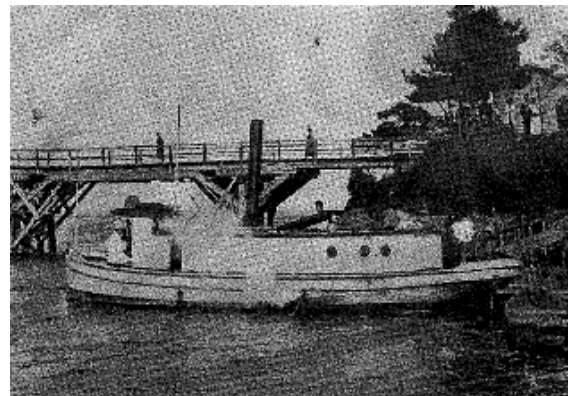
橋長約216m幅員約3.6mの木造の橋で、船が通行できるよう桁を開閉することが可能でした。しかし、明治29年9月洪水により落橋してしまいます。（次回へつづく）

寄稿：茨城県土木部河川課



【初代海門橋（明治28年頃）】

写真：ひたちなか市提供



【航行中の那珂川汽船(明治後期～大正初期)】

写真：ひたちなか市提供

出水対応を行いました

○令和3年8月12日～15日の大雨では、常陸河川国道風水害対策支部（河川）を設置し、水位の監視・予測や関係機関との連絡調整等、出水対応にあたりました。

○那珂川水系では、流域平均で159.1mmの累加雨量を観測し、水府橋観測所で水防団待機水位を約50cm超過しました。

水系	河川名	観測所名	洪水ピーク		水防団 待機水位	氾濫 注意水位	避難 判断水位	氾濫 危険水位	計画 高水位
			ピーク水位	日時					
那珂川	那珂川	こぐち 小口	1.99	8月15日 10:00	4.00	5.00	5.00	5.50	9.67
	那珂川	のぐち 野口	1.16	8月15日 14:00	2.50	3.50	4.10	4.50	7.56
	那珂川	すいふばし 水府橋	3.53	8月15日 18:00	3.00	4.00	5.40	5.80	8.36



出水対応の状況



国土交通省 関東地方整備局
常陸河川国道事務所 調査第一課
TEL:029-240-4069



〒310-0851
茨城県水戸市千波町1962-2

プロジェクトに関するお問い合わせはこちらです

常陸河川国道事務所

検索

